

2-4 認知症介護指導者としてのその他の活動

大分認知症カンファレンス(県単位の認知症ネットワーク)と連携し、指導者・推進員による事例検討会・住民向けセミナーを開催(大分県)

【活動の概要】地域の認知症介護指導者が認知症地域支援推進員やデイサービス、訪問介護事業所と共に「城東・上野ネットワーク」を作り、年3回＋臨時で、多職種による事例検討会を開催。いわゆる困難事例の解決を図るとともに、専門職のネットワーク、住民とのネットワークを育てている。

取組みのきっかけ・背景

- 地域の小さい単位でネットワークを作ろうと認知症介護指導者が、地域の他の認知症介護指導者、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員などに声をかけた。
- 包括からは単独の包括ではなく、複数の包括で進めたいという希望があり、**「城東・上野ネットワーク」を設立**し、指導者・推進員が運営メンバーとして取り組みを始めた。

取組みの発展と成果

- 大分は、もともと県単位で認知症に関する医師のネットワークがあった。⇒指導者がゲストスピーカーで招かれるなど連携が生まれ、発展。⇒ネットワークに多職種が参加するようになり、3年前ほど前から、県単位の認知症ネットワーク「大分認知症カンファレンス」が設立。(150人～200人規模で年2回開催、世話人は指導者3名、推進員2名。)
- 「城東・上野ネットワーク」は、1回50人～60人程度参加し、年3回事例検討会を開催できている他臨時で開催することも。メンバーは、介護支援専門員、包括スタッフの他、看護、デイ、ヘルパーなども参加。回によっては医師の参加も得ている。
- H26年度は、徘徊・行方不明が話題となっていたこともあり、民生委員や地域住民も含め、町のことをみんなで考えるというコンセプトで、住民を含めた多職種のセミナー「どうするわが町ミーティング」をこれまでに2回開催し、30名～70名が参加。

- 「**城東・上野ネットワーク**」での取組みの結果は、**「大分認知症カンファレンス」**で共有し、アピールするとともに、他地域の情報も得ながら活動を進めている。
- 大分市との連携が進むように役所に対しても継続的に働きかけ中。
- 専門職のネットワークができ、連絡・相談体制が充実した。
- 専門職の力量向上につながっているという声も。
- 指導者・推進員が大分認知症カンファレンスの世話人**に。